

製品名: Ini1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12617**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	SMARCB1 BAF47 INI1 SNF5L1
別名	SMARCB1 BAF47 INI1 SNF5L1
遺伝子 ID	6598.0
SwissProt ID	Q12824
免疫原	アミノ酸配列範囲 331-380 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

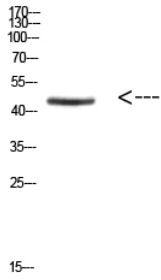
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、抑制性のクロマチン構造を緩和する複合体の一部であり、転写機構がより効率的に標的にアクセスすることを可能にします。コードされている核タンパク質は、HIV-1 インテグラーゼに結合して DNA 結合活性を増強

する可能性もあります。この遺伝子は腫瘍抑制因子であることが判明しており、その変異は悪性ラブドイド腫瘍と関連付けられています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2015年12月]、疾患: SMARCB1 の欠陥はラブドイド腫瘍 (RDT) の原因です[MIM:609322]。悪性ラブドイド腫瘍 (MRT) とも呼ばれます。腫瘍抑制因子。ラブドイド腫瘍では不活性化されています。ラブドイド腫瘍は、通常、幼児期に発生する悪性度の高い腫瘍群です。SMARCB1/INI1 は類上皮肉腫でも頻繁に不活性化されます。疾患: SMARCB1 の欠陥はシュワン細胞腫 [MIM:162091] の原因です。シュワン細胞腫は先天性皮膚神経鞘腫とも呼ばれます。シュワン細胞腫は末梢神経鞘の良性腫瘍で、通常はそれ以外は正常な人に単独で発生します。同一人物にシュワン細胞腫が複数発生した場合は、基礎に腫瘍素因症候群があることが示唆されます。最も一般的なそのような症候群は NF2 です。NF2 の特徴は両側の前庭神経シュワン細胞腫の発生ですが、NF2 に罹患した個人の 3 分の 2 以上が他の場所にシュワン細胞腫を発症し、NF2 に罹患した小児では皮膚シュワン細胞腫が前庭腫瘍に先行する場合があります。前庭シュワン細胞腫の証拠を示さない多発シュワン細胞腫の個人に関する報告がいくつかあります。臨床報告によると、シュワン細胞腫は他の形態の神経線維腫症とは異なる臨床実体である。機能:BAF (hSWI/SNF) 複合体の中核成分。この ATP 依存性クロマチンリモデリング複合体は、細胞増殖および分化、細胞の抗ウイルス活性および腫瘍形成の阻害において重要な役割を果たしている。BAF 複合体は、正常よりも負のスーパーコイルを少なく抑制する、安定した変化したクロマチン形態を作り出すことができる。このスーパーコイル構造の変化は、ポリヌクレオソームアレイ上のヌクレオソームの最大半分が、それぞれ 2 つのヒストンオクタマーからなるアルトソームと呼ばれる非対称構造に変換されるためと考えられる。in vitro で SMARCA4/BRG1 のリモデリング活性を刺激する。CSF1 プロモーターの活性化に関与している。細胞周期制御に重要な役割を果たし、G0/G1 における細胞周期停止を引き起こす。また、ビタミン D 受容体 (VDR) によってリクルートされるクロマチンリモデリング複合体である WINAC 複合体との関連を介して、ビタミン D 共役転写制御にも関与しており、CYP27B1 遺伝子のリガンド結合 VDR 媒介トランスクリプションに必要です。PTM: DNA 損傷時にリン酸化されます (おそらく ATM または ATR による)。類似性: SNF5 ファミリーに属します。サブユニット: BAF (hSWI/SNF) 複合体の構成要素で、少なくともアクチン (ACTB)、ARID1A、ARID1B/BAF250、SMARCA2、SMARCA4/BRG1、ACTL6A/BAF53、ACTL6B/BAF53B、SMARCE1/BAF57、SMARCC1/BAF155、SMARCC2/BAF170、SMARCB1/SNF5/INI1、および次の 1 つ以上が含まれます。SMARCD1/BAF60A、SMARCD2/BAF60B、または SMARCD3/BAF60C。筋細胞では、BAF 複合体は DPF3 も含む。SMARCC1/BAF155 および SMARCC2/BAF170 と直接結合し、これら 3 つのタンパク質は SMARCA4/BRG1 と結合する。WINAC 複合体の構成要素であり、少なくとも SMARCA2、SMARCA4、SMARCB1、SMARCC1、SMARCC2、SMARCD1、SMARCE1、ACTL6A、BAZ1B/WSTF、ARID1A、SUPT16H、CHAF1A、および TOP2B から構成される。二本鎖 DNA に結合し、MYK および MAEL と相互作用する。PPP1R15A と相互作用する。ヒト免疫不全ウイルス 1 型 (HIV-1) インテグラーゼに in vitro で強固に結合し、DNA 結合活性を刺激する。ヒトパピローマウイルス 18 型 E1 タンパク質と相互作用し、ウイルス複製を刺激する。エプスタイン・バーウイルスタンパク質 EBNA-2 と相互作用する。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



800 倍希釈の抗体を用いた HEPG2 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 倍希釈した。